

フラワーガーデン



園芸総合センター
今出来 光志

秋植え球根草花の鉢栽培

○はじめに
十月は、秋植え球根草花の植え付けシーズンです。

園芸店にも、様々な種類の球根が並ぶ時期です。

球根草花の鉢植え栽培は、露地植え栽培よりも難しいと思われるかもしれませんが、コツをつかめば案外うまくできるものです。

開花時期に鉢を自由に移動できる秋植え球根草花の鉢植え栽培にチャレンジしてみましよう。

○球根の種類

一般に秋植え球根は、開花時期が三月から五月上旬頃の春咲きのものが多いようです。

主なものには、ユリの仲間（ユリ科）のチューリップ、スカシユリ、オーニソガラム、アリウム、



▲オーニソガラムは性質が強健



▲人気のあるランキュラス

ヒヤシンス、アヤメ科のイキシア、クロッカス、キンポウゲ科のアネモネ、ランキンキュラス、ヒガンバナ科のスイセン、リコリス等があります。

鑑賞する場所や好み等に応じて品目、品種を選びましょう。

○アネモネとユリの鉢栽培

クロッカスやオーニソガラム、スイセン等は、一般に性質が強健な品種が多く、栽培も比較的やさしいようです。

ここでは、栽培に少し技術を要する、アネモネとユリの鉢栽培について紹介します。

一 アネモネの鉢栽培

① 球根の選定

球根は、硬く乾燥した、表面に



▲アネモネ



図1 アネモネの実生1年と2年の球根(上図)と以降の球根(下図)

白いカビが付着していない、大きくて重いものを選びます。実生1年生の球根は、円錐形で、2年目以降は下部の円錐形が無くなり、不整形の扁平球となります。

品種は「デカン」、「モナリザ」等があります。

② 鉢の準備と球根数

五号鉢には三球植え、プランタ1には二条で十球を植えます。

③ 植え付け用土

根が細かく浅根性なので良質の

有機物を多く配合します。

用土の配合例としては、田土五、腐葉土四、川砂一の割合で混合したものに基肥を入れて用います。

④ 植え付け

五号鉢では、基肥にマグアンプKを二〜三g混入した用土に、発芽部（茎跡）を上にして植え付けます。実生一年生の球根の場合には、尖っている方が下になりますので、上下を間違わないようにします。

覆土は一〜二cm程度します。深植えすると、発芽が遅れたり、生育不良となるので、注意します。

⑤ 植え付け後の管理

球根に急速に吸水させると腐る原因にもなるので、植え付け後は灌水を行わずに発芽させます。

発芽後は通常の灌水を行います。発芽後は通常の灌水を行います。発芽後は通常の灌水を行います。

鉢の置き場所は、日当たりの良い場所で、霜の当たらない場所に置きます。

追肥は、二月から五月まで毎月二回、ハイポネックスの五〇〇倍液等を施します。

⑥ 病害虫防除

葉にゴマのような斑点が付き、土際に灰色のカビが現れる菌核病にならないように予防します。春先にはアブラムシの発生に注意します。

生育不良株の根が、ネコブセンチュウに冒されている場合は、殺センチュウ剤で駆除します。

⑦ 開花後の管理

通常は四月に開花し、開花後はすぐに種子ができるので、採種する場合以外は花茎を切り捨てます。

六月頃、地上部が枯れ始めたら球根を掘り上げ、水洗、消毒した後、日陰で十分乾かし、通風の良い場所で腐らせないように、次年度の植え付けまで貯蔵します。

二 ユリの鉢栽培

① 球根の選定

球根は、外部の鱗片がしなびておらず、表面に褐色斑点や凹凸のない、しまりのある球根を選びます。花色や草丈の大小等、好みに応じた品種を選びます。

② 鉢の準備と球根数

大球根種は八号鉢に三球、六号鉢に一球植え、小球根種は六号鉢に三球植え、プランターには、小球根種は二条で十球、大球根種は三〜四球を目安に植えます。

③ 植え付け用土

用土の配合例としては、田土五、腐葉土三、川砂二の割合で混合したもの等に基肥を入れて用います。

④ 植え付け

基肥は、植え付け用土一ℓにマグアンプK、B Mヨウ燐、苦土石灰をそれぞれ三gずつ混入します。

八号鉢や六号鉢にゴロ土を三cm程度入れ、次に球根の根が出ていく方を下にして、植え付け用土で植え付けます。

覆土は球根の高さの二分の一〜一球分くらいします。

⑤ 植え付け後の管理

ユリは、暑さと乾燥に弱いので、鉢の置き場所は、西日を避けられる場所に置きます。

ヤマユリ、ササユリ、オトメユリは、根元の乾燥を嫌うので、樹木の間等に置きます。テッポウユ

リやスカシユリは日当たりを好みますが、敷き草や堆肥等で根元を覆って夏の乾燥を防ぎます。

追肥は、萌芽期から開花終了までハイポネックスの五〇〇倍液等を月二回と、萌芽期と開花期終わりに有機化成肥料を一つまみ施します。

鉢植えは、浅植えが欠点であるため、茎が伸びてきたら増し土を行い、上根の発達を助けます。

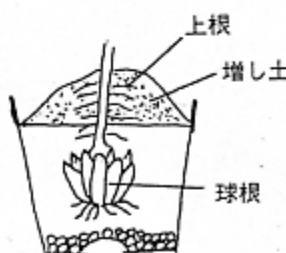


図2 ユリの鉢植えの増し土

⑥ 病害虫防除

葉枯病やアブラムシの防除を行います。

⑦ 開花後の管理

花が終われば、種子が入らないように花首から折り取り、球根の肥大を助けます。